
特集2

江戸東京たてもの園セミナー 「建築家デ・ラランデと日独建築交流」

江戸東京たてもの園の分館・江戸東京たてもの園では、平成19年度以降、3棟の新規収蔵建造物の復元を予定しています。なかでも明治43年（1910）に建てられた三島邸は、たてもの園初の「明治の洋館」となるわけで、大いに注目される建物です。もともとは平屋だったこの建物は、兵庫県神戸市にある国指定重要文化財「旧トーマス住宅」（風見鶏の館）を設計したドイツ人建築家、ゲオルグ・デ・ラランデ（1872～1914）の手によって3階建てに改築され、自邸として使われていたものです。

本セミナーでは、三島邸の復元に先立ち、建築家デ・ラランデと、日本が欧米の文化を受容した明治期において、範となし、大きく影響を受けたドイツの建築を中心に、その時代と建築文化を紹介しました。ここに、その内容を収録いたします。

江戸東京たてもの園セミナー 「建築家デ・ラランデと日独建築交流」

2006年12月2日（土） 江戸東京博物館ホール

「ドイツ人建築家G.デ・ラランデとその周辺」

「日本に影響を与えたドイツ人建築家たち」

「ドイツから影響を受けた日本人建築家たち」

神戸芸術工科大学名誉教授・坂本勝比古

昭和女子大学教授・堀内正昭

文化庁参事官（建造物担当）付・堀勇良